

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

がんプロ国際シンポジウム

「がん分野におけるゲノム医療 実現に向けた取り組み」

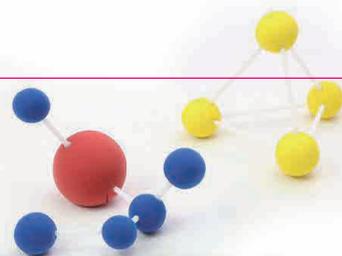
7/15(金)
開催

～クリニカルシーケンスがもたらすがん医療の将来像と問題点～

順天堂大学 大学院医学研究科 臨床腫瘍学 教授 加藤 俊介

7月15日、順天堂大学において「がん分野におけるゲノム医療実現に向けた取り組み～クリニカルシーケンスがもたらすがん医療の将来像と問題点～」と題した国際シンポジウムを行いました。昨年米国オバマ大統領が行った一般教書演説において科学技術に関する施策としてprecision medicine initiativeが取り上げられ、ゲノム情報に基づくより詳細な個別化医療への取り組みが注目されつつあります。日本においても、健康・医療戦略及び医療分野研究開発推進計画を踏まえ、ゲノム医療を実現するために「ゲノム医療実現推進協議会」が設立されましたが、その普及のためには、社会基盤整備、個人情報保護や二次的所見の取り扱いなどの倫理的課題など、解決すべき事項は山積みとなっています。今回のシンポジウムでは、米国Memorial Sloan Kettering Cancer CenterのMark Ladarnyi先生をお呼びし、同施設で行われているクリニカルシーケンス(MSK-IMPACT)の実績をご紹介いただきました。引き続き、臨床検査部の田部陽子先生、人体病理の林大久生先生を司会に、Ladarnyi先生、呼吸器内科の高橋史行先生、日米の認定遺伝カウンセラー資格を持っているFMC東京クリニックの田村智英子先生、医薬品医療機器総合機構の宮本大誠先生にパネラーとなっただき、我が国にクリニカルシーケンスを導入された際の展望や問題点について討論が行われました。シンポジウムは2時間の予定を超過して終了し、参加者の今後の医療への期待の大きさを強く感じました。





「がん分野におけるゲノム医療実現に向けた取り組み」

順天堂大学 大学院医学研究科 臨床病態検査医学 前任准教授 田部 陽子

去る7月15日、ICTで連携大学を結び、国際シンポジウム「がん分野におけるゲノム医療実現に向けた取り組み～クリニカルシーケンスがもたらすがん医療の将来像と問題点～」を開催しました。本シンポジウムでは、順天堂医院が日本で初めて日常診療に取り入れた世界最先端のクリニカルシーケンスシステム「MSK-IMPACT」について、これを主導するMarc Ladanyi教授（米国Memorial Sloan Ketteringがんセンター）に講演いただきました。続いて行われたパネルディスカッションでは、Ladanyi教授のほか、臨床医の立場から順天堂医院呼吸器内科の高橋史行医師、カウンセラーの立場から田村智英子 胎児クリニック東京医療情報・遺伝カウンセリング室長、行政の立場から宮本大誠 医薬品医療機器総合機構 体外診断薬審査室長という立場の異なるパネリストにより、がん医療におけるクリニカルシーケンスの可能性と課題についての討論が行われました。クリニカルシーケンスががん治療に役立つだけでなく、広く医学研究に活用できるという期待とともに、検査の品質管理や結果解釈、二次的所見の取り扱いやカウンセリングの充実など、今後の課題についても活発な議論がなされ、クリニカルシーケンスを日常診療に導入する上での具体的な課題を共有することができました。



順天堂大学 大学院医学研究科
人体病理病態学 准教授 林 大久生

「国際シンポジウムについて」

平成28年7月15日、順天堂大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催で国際シンポジウム「がん分野におけるゲノム医療実現に向けた取り組み～クリニカルシーケンスがもたらすがん医療の将来像と問題点～」が開催され、ICT接続により連携大学にも配信されました。当日はニューヨークのMemorial Sloan Kettering Cancer CenterよりMarc Ladanyi先生をお招きし、癌関連遺伝子を網羅的に解析するMSK-IMPACT検査10,000例の臨床データに関して講演を頂いた後、Marc Ladanyi先生、当院呼吸器内科の高橋史行先生、日米遺伝カウンセラーの田村智英子先生、医薬品医療機器総合機構の宮本大誠先生をパネリストに迎え、クリニカルシーケンスをテーマにパネルディスカッションを行い活発な議論が交わされました。日本でもクリニカルシーケンスが癌医療の個別化を促進していくと考えられますが、二次的所見の取り扱いや検査導入に必要な社会的基盤整備等、早急に解決すべき問題点を参加者全員が共有でき、極めて有益なシンポジウムとなりました。



9/3(土) 4(日) 開催

平成28年度 連携7大学FD研修会 報告

総括

立教大学 理学部物理学科 教授 小泉 哲夫

9月3・4日に開催されたFD研修会に参加しました。今回は最終年度を迎えた本事業の総括を行い、11月に行われる外部評価委員会で使用するスライド作成を目指すというものでした。このために教育分野、地域分野、研究分野、国際化分野の4つのワーキンググループを作り、それぞれのテーマについて事業成果をまとめる作業を行いました。私は教育分野のグループに参加させていただきました。普段は理学部物理学科に所属しているので、医学教育・がん教育からは少し離れた立場にいますが、今回のグループワークを通して本事業で様々な成果が上がっていることが実感できました。特に本事業の主題である、医薬理の連携・都市と地方の連携については、それぞれの違いを認識しつつ、共通の課題に対処することがICTを活用することでかなりできていると感じました。初日はグループワークの中間報告までで、その後、私は連携7大学運営連絡会（およびその後の交流会—これがまた楽しい会でした）に参加したので、発表スライドの完成には寄与できませんでしたが、2日目の全体発表会では各グループとも完成度が随分と高くなっていましたので少し驚きました。今後、外部評価、最終報告とまとめ上げ、がんプロ第3期につながることを期待します。



教育分野

明治薬科大学 薬物体内動態学 PD 井上 裕貴

私は今回のFD研修で教育グループに参加し、がん医療教育の成果と課題、今後の展望について討論を行いました。社会に貢献できるがん教育とは何か、ということを考えさせられる討論となりました。また教育分野の達成目標であるがん医療教育の充実は、いくつか課題は残っているものの概ね達成できていると感じました。全体を通して、7大学が連携し問題の解決にあたることで難しい問題も乗り越えられることを実感できた研修会となりました。



地域連携分野

順天堂大学 先導的がん医療開発研究センターPD 臨床検査医学 関原 和正

昨夏盛岡で開催されたFD研修会に続き、参加させて頂きました。「教育」、「地域」、「研究」、「国際化」の4グループに分かれ、中間評価で指摘された課題および今後の取り組みについて、非常に活発な議論が行われました。特にかんプロを通じた山陰・東北における取り組みは非常に素晴らしいもので、大変感銘を受けました。さらに夜には高橋先生のご配慮で、意見交換会にて素晴らしい交流が出来ました。これからのがんプロの活動にたいへん有意義な合宿だったと思います。ありがとうございました。

研究分野

順天堂大学 先導的がん医療開発研究センター研究支援者 下部消化管外科 非常勤助教 深谷 緑

私は今年度下部消化管外科に採用していただき、がん研究に着手したばかり。今回の研修は「連携」を多彩なメンバーとのグループワークの中で実感し、がんプロの全体像を学ばせていただく得難い機会となりました。

グループワークでは、がんプロの活動は多くの画期的研究を生んできたものの、この成果が、実は外部には伝わりにくいことが明らかになってきました。活発に意見を出しあった結果、このギャップを埋めるには、大学間・分野間などの連携、ICT活用・循環型といった定性な評価基準を付して特長を可視化すること、また個々の研究課題を、各大学からだけでなく「がんプロ」としての統合的Webサイトから発信するなどの案が生成しました。さらに濃密な全体発表・総合討論も私にはexcitingなものでした。

異分野（生物学）での長い経験を活かしつつ、がん研究に微力を尽くしたいと改めて思いました。今後共どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

国際化分野

順天堂大学 臨床腫瘍学 大学院博士課程1年 清水 麗子

今回の連携FD研修会は、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン第2期、約4年半の総括の意味合いもある研修会でした。国際化分野では今までの成果として、がんプロが主体となって行ってきた海外研修やシンポジウム、海外からの講師の招請、またそれらから得られたものの社会への還元などが上がり、その活動が多岐に渡るものだということが実感される話し合いになりました。それと同時に今まで行ってきたことを、継続発展させていく取り組みが期待される分野であると感じました。

高校生病理セミナー

7/16(土)
開催

顕微鏡の世界 — 正常細胞とがん細胞の違い —

～顕微鏡で観る細胞の世界、一緒に覗いてみませんか～

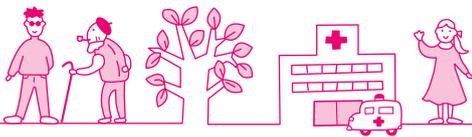
順天堂大学 病理・腫瘍学講座 助教 佐伯 春美

平成28年7月16日(土)に第1回高校生セミナーが順天堂大学お茶の水キャンパス センチュリータワー地下1階形態系実習室にて開催されました。都内・東京近郊の中学校、高等学校から多数の参加希望を頂き、当日は約80名程度の中学生・高校生が参加しました。本セミナーは「がん教育」の一環として、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの後援を頂いております。病理・腫瘍学講座の樋野興夫教授による開会の挨拶、「がん教育」のお話から始まり、順天堂大学練馬病院 病理診断科の小倉加奈子先生、順天堂大学浦安病院 病理診断科の橋爪茜先生、佐伯で、「がん」はどのような病気か、顕微鏡でがん細胞はどのようにみえるのか、診断をする際のプロセスを午前中に講義を行いました。午後は、当講座スタッフ、附属病院病理医の指導のもと、病理標本実習を行いました。グループ毎に10種類の病理組織標本を顕微鏡で観察し、それぞれについて診断をしてもらう実習であり、中学生には難しい部分もあったかと思いますが、グループ内で意見を出し合い、まとめ、協力して診断をしている姿も見られ、参加者の積極性を感じました。通常では中学校や高等学校ではみることがないがん細胞を、実際に顕微鏡で観察し、診断を自分で考えてみることは貴重な経験となったことでしょう。総括では腫瘍内科学講座の加藤俊介教授に分子生物学も含むお話を頂きました。



現在、文部科学省は「がんの教育総合支援事業」を展開しており、全国的にも青少年を対象とした「がん教育」が行われつつあります。そのような中、本セミナーは講義の他、実際に顕微鏡を覗いて目でみてもらう実習も行い、より実践的なセミナーとなるよう企画しました。セミナー後のアンケートでは、このような実習が出来るセミナーがもっとあって欲しいといった意見もあり、今後も今回のような実習を含むセミナーを継続的に開催していけたらと考えております。





報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。



- セミナー(鳥取大学)「鳥取大学医学部附属病院がんセミナー」
講師：鳥取大学医学部附属病院 胸部外科 村田 陽子 先生 他 2016年7月7日(木) 18:15～20:00
がんプロ国際シンポジウム(順天堂大学)
「がん分野におけるゲノム医療実現に向けた取り組み～クリニカルシーケンスがもたらすがん医療の将来像と問題点～」
講師：Chair in Molecular Oncology, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center Marc Ladanyi, M.D.
2016年7月15日(金) 17:00～19:00 ICT接続により連携大学に配信
セミナー(順天堂大学) 高校生セミナー「顕微鏡の世界～正常細胞とがん細胞の違い～」
講師：順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 佐伯 春美 助教 他 2016年7月16日(土) 9:30～16:00
ICT連携特別講義(鳥取大学)「鳥取大学医学部附属病院がんセミナー」
講師：Dr. Maria Zajac-Kaye, Associate Professor, Department of Anatomy and Cell Biology College of Medicine, University of Florida 他
2016年7月20日(水) 16:00～18:00 ICT接続により連携大学に配信
セミナー(鳥取大学)「緩和ケアとは？」 話し手：鳥根大学医学部 緩和ケア講座 中谷 俊彦 教授 2016年7月21日(木) 18:30～19:30
セミナー(順天堂大学)「クローナル造血の臨床的意義」
講師：MDアンダーソンがんセンター Assistant Professor 高橋 康一 先生 2016年7月26日(火) 16:00～17:30
がんプロ研究シンポジウム(東京理科大学)「がん治療における標的探索から臨床まで」
講師：東京理科大学 薬学部 秋本 和憲 准教授 他 2016年7月30日(土) 13:30～17:00
セミナー(鳥取大学)「鳥取大学医学部附属病院がんセミナー」
講師：鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 藤原 和憲 先生 他 2016年8月4日(木) 18:15～20:00
セミナー(岩手医科大学) 臨床研究セミナー「臨床研究プロトコルの作り方 初心者、中級者を対象に」
講師：国立がん研究センター中央病院日本臨床腫瘍研究グループデータセンター長 福田 治彦 先生 2016年9月2日(金) 17:00～20:00
市民公開講座(岩手医科大学)「知っ得、なっ得、乳がんの“いろは”」
講師：岩手医科大学 外科学講座 小松 英明 助教 2016年9月10日(土) 11:00～14:55(二部制)
ICT連携特別講義(東京理科大学・明治薬科大学)「がんチーム医療における薬剤師」
講師：千葉県子ども病院薬剤部 浅子 恵利 部長 2016年9月13日(火) 18:30～20:00 ICT接続により連携大学に配信
がんプロ地域シンポジウム(岩手医科大学)「地域連携における在宅がん医療～がん緩和医療を中心に地域での取り組みを考える～」
講師：岩手医科大学 緩和医療学科 木村 祐輔 教授 他 2016年9月21日(水) 18:30～20:00 ICT接続により連携大学に配信

今後のスケジュール

詳細はHPに随時掲載します

- がんプロ肺癌国際シンポジウム(岩手医科大学)「地域から首都圏、そしてアジアまで俯瞰する肺がん研究 2016」
講師：タイ王立マヒドン大ラマティボディ病院 医学部内科学臨床腫瘍学講座 Thanyanan Reungwetwattana 先生 他
2016年10月20日(木) 15:00～17:40 岩手医科大学創立60周年記念館9階第1講義室 ICT接続により連携大学に配信予定
講演会(岩手医科大学)「頭頸部悪性腫瘍に使用される分子標的治療薬の実際～効果と副作用、臨床における役割と展望～」
講師：国立がん研究センター東病院 頭頸部内科 岡野 晋 先生 他 2016年10月28日(金) 18:30～20:30 岩手医科大学創立60周年記念館9階第1講義室
ICT連携特別講義(鳥根大学・鳥取大学)「がんプロによって構築された地域連携と生涯教育の将来展望」
講師：国立がん研究センター東病院 頭頸部内科 岡野 晋 先生 他 2016年11月16日(水) 18:30～20:00 ICT接続により連携大学に配信
講演会(岩手医科大学)「[大腸がんの予防]～内科的・外科的治療および予防法について～」
講師：岩手医科大学 消化器内科消化管分野 川崎 啓祐 助教 他 2016年11月17日(金) 16:00～18:30 岩手医科大学創立60周年記念館9階第2講義室
がんプロ市民公開シンポジウム(鳥取大学・鳥根大学 同日開催)「がんと上手につきあうために」
2016年11月20日(日) 時間未定 鳥取会場(国際ファミリープラザ) 鳥根会場(鳥根大学医学部附属病院みらい棟4階ギャラキシー)
ICT連携特別講義(岩手医科大学)「(超)高齢者のがん医療の現状と課題(仮)」
講師：鳥根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 磯部 威 教授 他
2016年11月22日(火) 18:30～20:00 岩手医科大学創立60周年記念館9階第2講義室 ICT接続により連携大学に配信予定
市民公開講座(鳥取大学・鳥根大学 同日開催)「緩和ケア講座・緩和ケアセンター市民公開講座」
2016年11月23日(水・祝) 時間未定 鳥根大学医学部 臨床講義棟
講演会(岩手医科大学) 腫瘍センター講演会「がんのゲノム医療実現に向けて」
講師：東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 クリニカルシーケンス分野 松田 浩一 教授
2016年11月29日(火) 18:00～19:00 岩手医科大学創立60周年記念館9階第1講義室

編集後記

「高校生セミナー：顕微鏡の世界～正常細胞とがん細胞の違い～」で、10校から参加された生徒の『真摯な魂と輝く眼』には、大いに感動した。文京区教育委員会教育センター主催 平成28年度文京区立小学校教員対象講習会『小学校段階で必要ながん教育の在り方を考える』では、筆者は講演「『がん教育』～課題と展望～」の機会が与えられた。今後、「がん教育」は、全国の教育委員会でも、展開される予感がする。『がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン ICTと人で繋ぐがん医療革新プラン 平成28年度 連携FD研修会』に、参加した。作業部会「教育分野」・「地域分野」・「研究分野」・「国際化分野」の全体発表・総合討論は、「がん教育」・「多機関のチーム医療」・「地域医療連携システム」の、大いなる学びの時であった。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター
順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

http://ganpro-ict-plan.jp/index.html